

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2273100137		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームゆひもや 2階		
所在地	静岡県静岡市清水区由比427-14		
自己評価作成日	平成30年8月10日	評価結果市町村受理日	平成30年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2273100137-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①毎月勉強会とテストを実施し、スキルアップに努めている。 ②毎月のクリーン作戦(歩道の清掃活動)とシニアサポーターの受け入れにより、地域貢献・地域交流を行っている。 ③デイサービスとの合同行事やレクリエーションへの参加。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>由比海岸の近くにデイサービスと併設して事業所があります。児童館から子どもたちが来所することはこれまでもあり、利用者が大変喜ぶため事業所では独自に「キッズサポーター」と銘々する企画を立ち上げています。階下のデイサービスと合同行事を年6回実施する場に子どもたちを招くもので、小学校、児童館にもチラシを配布してPRした結果、前回の夏祭りには35名の小学生で賑わい、ありがとうの言葉を届けあう書簡交換にも発展しています。また本年は職員の頭数の充足も得たことから、ユニット勤務の固定を図り、情報の行き違いをなくす業務改善に取り組んでいて、職員の働きやすさにも力を入れています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ全体の理念を基にグループホーム独自の理念を掲げ職員が共有している。「こやまケア行動指針」「職員行動指針」を会議にて唱和することで職員間で共有し、お客様に寄り添うケアを目指している。	いつでも目に入るよう「こやまケア」を職員トイレに掲示し、「お客様の喜び～」との理念はキッズサポーターの運営に現れ、法人のこやまケア研究発表会でも本実践を披露しており、地域密着型サービスに努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	シニアサポーターや慰問の方々の受け入れを行い、地域交流を続けている。また、地域の芸術祭に年1回作品を展示させて頂き参加している。	園児の来所が年1回、小・中学生の福祉体験や教員免許の単位取得のほか、シニアサポーターがお話ボランティア、家事支援、音楽披露等と、これまでも人の往来が豊富でしたが、近年はキッズサポーター企画を通じて子どもとの異世代交流が盛んです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月地域の清掃活動を実施する中で、地域貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、行事や勉強会内容、防災についての取り組みを報告させて頂いている。出席者の意見をサービス向上のために活かし、不参加者には報告書を送付している。	防災コーディネーターとして活動する地域の人も加わってくださり、自治会長も防災に熱心なことから運営推進会議では防災課題と対策の話が多くでていて、この場から地域企業の深沢石油と佐野板金の訓練参加が実現しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議へ参加して頂いている。不参加の場合は報告書を送付している。	地域包括支援センターからは運営推進会議に職員の出席が毎回あり、困難事例には事業所と一緒に頑張って対応くださる等、協力支援を大いに受けています。事業所でも集団指導には必ず出向き、シニアサポーターの利用も積極的におこなっています。	介護相談員の利用も今後の取組みとして検討されると、良いと思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について会議を開催し、取り組みや職員の意識付けを行っている。また、勉強会を実施し、身体拘束しないケアへの周知徹底を行っている。	リスクマネジメント委員会の中で身体拘束についての取組みを強化していますが、話し合いの場はこれまで通り変わらず年4回です。現在対象となる人はいないため、リスクマネジメント的な協議に留まっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に、虐待の勉強会も実施し、注意喚起、意識付けを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がついているお客様が入居されていた際には、カンファレンスの中でその都度情報交換を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書を用い内容について説明している。その際に疑問点をお聞きし、不安が解消されるよう対応している。改定時には、事前説明会を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議にご家族にもして頂き、意見を頂いている。また、定期的にアンケートを実施し、反映させるようにしている。また、お願いBOX(意見箱)を設置し毎月確認している。	家族会は年1回、本年はバーベキュー大会と併催していて、5世帯が参加しています。利用者には「〇〇へ行きたいよ」と聞けば速やかに対応し、家族の要望は介護計画書に載せることで反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議の報告をその後の全体会議にて行い、話し合う機会を設けている。具体的な内容については部署会議にて話し合いを行っている。	性格的なこともあるのかベテランだからか、会議現場は意見は活発です。ユニットの固定勤務も職員意見に因るもので、職員がリーダーに直接進言や報告する場面を訪問時にも垣間見ました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価表を用い自己評価・上司評価を行い、個人評価に繋げている。また、個人目標を各自立て、面談を行う中で職場環境等について話をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には法人で研修を行い、基本的な地域の習得を図っている。自施設では、プリセプターと共にOJTを行い、独り立ちを目指している。内部・外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が外部研修に参加することで同業の職員と交流を図っている。お客様のインタークに他事業所へ訪問した際、ケアの内容やGHの状況について情報交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークに伺い「利用者面談記録兼アセスメント」を基に介護計画書を作成し、カンファレンスにて検証を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談し要望や不安な点を確認している。ご家族の要望を伺い介護計画書に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「利用者面談記録兼アセスメント」を基に介護計画書を作成し、カンファレンスにて検証を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や行事の準備等ご本人ができることをやっています。お客様に感謝の言葉を伝えることでやりがいを持ってもらえるように支援している。できないお客様も単調な生活にならないようメリハリをつけて生活して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで日々の様子を伝えている。家族会や祭りなど案内を送りご家族と過ごせる機会を作っている。ご家族が来訪した時はゆっくりと過ごせる環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りや行事、散歩などで地域の方たちと交流している。デイサービスとの合同行事に参加することで知り合いのお客様やボランティア、ご家族との交流をしている。	3～4割が階下のデイサービスのOBです。不穏な状態でも顔見知りの人と話をすることで安心して帰宅願望が薄れる人もいて、デイサービスに通う利用者が職員の協力者となっています。写経などの趣味を続けたり、馴染みの美容院に通うこともできています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等の際に他の階のお客様と交流している。お客様同士の関係性を普段の様子からうかがい、職員が間に入ることで良い関係性を保つことが出来るように配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療関係や福祉関係の相談がある時はご家族の支援のためお話を伺っている。相談内容によって適切な情報提供や関係機関の紹介を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接本人に伺い、会話の中から把握するよう努めている。インテークの際にご家族や関係者からも情報を頂きながら、困難な場合でも本人が望んでいることを把握できるよう努めている。	アセスメントシートは赤、青、緑と加筆修正を重ね、緑の次は新たなシートに替えてと、丁寧です。日々の生活記録とともに、変化や課題が見られた場合には支援経過記録を加えることで共有強化を図り、また嗜好調査では外食巡りに反映させる等実践に結んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントを作成し職員全体で把握するように努めている。お客様との会話の中で把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録・バイタルチェック表・申し送りノート・モニタリング・カンファレンス・受診記録・医療連携簿を活用しお客様の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部署会議でカンファレンスを行い現在の課題や問題点について話し合っている。ご家族からも意見を伺い6か月ごとにモニタリングを行い介護計画書の見直しをし、検証後ご家族の了承を得ている。	部署会議の中で全体カンファレンスをおこない、生活記録には2表のサービス内容を記載することで毎日の実践を確かなものにしていきます。また生活記録は看取りには専用のものに替えていることから介護状態に応ずる態勢が見てとれます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にお客様のサービス内容が記載されている。職員は毎日サービス内容を確認することで現状の把握を行い、モニタリングに反映し、介護計画書作成の参考になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスのお客様と交流を図り、合同行事や慰問には自由に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員・地域包括・災害ボランティアなどの方々に参加して頂き協力をお願いしている。また、シニアサポーターや小学生の慰問など地域資源を活用し楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様に合わせた医療をご希望に添った形で決めている。受診が困難な方は訪問診療にて対応し、事業所の看護師が主に対応、連携を図っている。ご家族の都合で受診できないときは職員が対応したり、ご家族と共に受診に同行して医療とのスムーズな連携を図っている。	以前のかかりつけ医を8~9割が継続しています。緊急時や家族が無理との場合は職員が代わりますが、基本的には通院の付き添いは家族にお願いしています。医療情報は家族から口頭で受取り、職員が受診記録に記載しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービス看護師が体調確認を行い医療連携記録簿を作成している。受診時には受診記録を作成し看護師が確認している。変化がある時は朝礼で看護師への申し送りを行っている。申し送りの医療欄で職員全員がお客様の体調を把握出来るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、職員が付き添い現状を報告している。本人の状態に合わせて医師・ご家族と相談し病院への訪問、看護師への聞き取り等の対応をしている。退院時もMSWや看護師等と退院のカンファレンスを行い情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り及び重度化に関する指針・マニュアルがあり、入居時または適宜説明している。お客様の体調変化がある時には医療機関と早めに情報共有し、ご家族を含めて話し合いを行い支援している。	契約時に家族とは重度化及び看取りの指針に基づいた合意形成があり、本人の状態変化に応じて都度話し合う場を設けています。其々が続けるかかりつけ医はどれも協力的で、また訪問看護師と階下にはデイサービスに勤務の看護師もいて、看取りにも安心な医療環境に在ります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で緊急対応マニュアルを作成しており職員が把握している。今年度は普通救命講習の受講を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て防災訓練を行っており、火災想定を年2回、風水害訓練を年1回実施している。また、防災委員の会議にて備蓄品の整備や勉強会を実施している。	出火想定での避難訓練を2回、風水害対応の訓練を1回、総計3回取組んでいます。備蓄は3日程度ですが、2リットルのペットボトルを各ユニット6本ずつ洗浄用に準備し、発電機も備えています。地域の企業も訓練に参加くださり、地域防災への発展に期待が膨らんでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア行動指針に従い本人の意思を最優先にすることを大切にしている。接遇についての勉強会を行うことで職員一人一人が意識して業務している。	以前から事業所全体の課題として「接遇」を挙げていて、昨年さらに各種勉強会にも接遇を絡め、意欲的に繰り返し学習を深めています。通りすがりに利用者に声をかけたり、鼻がでたことに気づいてティッシュをそっと添える職員の姿も視認しました。	全体としては優しく親切な関わりでしたが、語尾がやや強かったり、総じて声が少し大きかったり、笑顔が見られない等の職員がいましたので、全体での振り返りの機会を改めてつくることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気兼ねなく要望を伝えることが出来る信頼関係を築くように努力している。自己決定のできるお客様には必ず意思の確認を行い、本人の希望に添うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースを崩さず、自由に生活できるように支援している。慰問や行事の参加もお客様にその都度希望を確認している。体調や気分により日々の関わり方を考慮し、申し送りを行い職員が把握している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様に合わせて静養ができるように支援している。2か月に1度訪問理容に来て頂き希望があれば散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様が食事を楽しめるように栄養課と協力しながら、お客様に合った食事形態での食事を提供している。また、お客様に準備や片づけなども関わって頂いている。	昼食は階下のデイサービスの栄養課の調理提供を受けていて、「美味しい」と好評です。まんぷく亭と名付けた企画では4種類から選ぶセレクトメニューとしたり、誕生日にはケーキを加えたり、クラシックや歌謡曲のBGMを流すなどの工夫があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量についてチェック表にて確認している。食事量が減っているお客様には、栄養課や看護師と連携し食形態の変更や姿勢の見直し、栄養補助食品での補食を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、本人に合わせてスポンジやガーゼ、歯ブラシなどを使用して介助を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	さり気ない声掛けや誘導を行い、排泄を支援している。食前後にはトイレ誘導を行い、トイレでの排泄パターンや排泄のサインを職員間で申し送りすることでトイレでの排泄の支援をしている。	排便については排泄チェック表をつけています。基本は本人本位で、職員は何気なく支援するという考えですが、自身で気づきにくい人には職員がリズムを把握しつつ誘導しています。毎日の都度のことなので職員間で状態把握が掴みやすく、スムーズに連携できています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタル表で排泄チェックを行い、状態を把握している。水分量が少ないお客様に対しては水分補給の声掛けをしている。便秘のお客様には看護師と連携して運動や下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に本人の希望を確認し得入用を楽しんで頂いている。お客様ごとにお湯の温度や入浴方法を職員が共有して気持ち良い入浴になるように配慮している。入浴時にはお客様とコミュニケーションをとって楽しい入浴になるようにしている。	週2~3回を目安に、「一番風呂がいい」「毎日入りたい」にも応えています。随分前は清潔重視で忙しい入浴でしたが、現在は「利用者の満足が一番大事」という認識で「ゆったり、ゆっくり和む」、「ありがとうと言ってもらえる入浴介助」を目指して、じっくり時間を取っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の希望や状態に合わせて昼寝や休息を取って頂いている。昼夜逆転にならないように昼寝の時間や日中の過ごし方に配慮している。居室の温度調整や寝具の調整をして気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手順書を作成し、薬の管理や服薬介助を行っている。服薬ミスがないようにチェック表を利用している。常に状態の変化に留意し医療連携簿、受診記録、申し送りノートにて情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビをみてお客様同士会話したり、できる家事を行ったり、慰問に参加したり、ご家族や地域の人との交流をすることで本人のペースを保ちながら単調にならないように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブに出かけて気分転換をしている。また、商工会祭りや芸術祭に出かけている。ただ、外出企画の数は少ない。	暑さ寒さの日を除いて散歩は日課で、ミニドライブとして周囲を廻ってくるようなコースもあり、足腰の心配な人は介護計画に歩行訓練を位置付けて実施しています。回転寿司などにも出かけていますが、年間計画として用意はしていません。	全体(ユニット)での外出企画を予めつくったり、個別外出も増えることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の希望に添って、職員と一緒に買い物に出かけることが時々あるが、施設にて現金を預からない事、お金の使用や管理が難しいお客様が多いこともあり、機会は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話にてご家族と連絡をとれるようにしている。施設から毎月の手紙や年末の年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、夜間に清掃を行い清潔な環境を整えている。温度や湿度の管理をして快適に過ごして頂けるようにしている。季節感を感じて頂けるように季節の飾りつけをしている。	足元が整理され、モノが置くべき場所に置かれていて、すっきりした共用空間です。十分な広さの畳スペースには掘りごたつもあり、簾やレクリエーション作品で季節を演出する配慮も見られます。	整理整頓は行き届いていますが、ドアの棧や床の角など普段目立たない箇所に埃や小さなゴミがありましたので、清掃箇所の見直しを期待します。また、臭いがこもるエリアもあるため、換気についても配慮ください。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とフロアを自由に行き来でき好きな場所でくつろぐことが出来るように努めている。フロアの空間がお客様同士の交流の場となるように職員と一緒に話をしたり、お声かけし支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やテレビなどを持参して頂いている。ご家族からのプレゼントや写真、メッセージを飾りご自分なりの雰囲気づくりを行っている。各部屋ごとに温度、湿度計を設置し環境を整えている。	カーテン、ベッドとやや大きめの洗面台が予め備わっています。折鶴が好きなことが一目で判る居室には孫の写真が飾られ、電子カレンダーや目覚まし時計、置き鏡と暮らしのリズムを整える小物が並び、暮らしの安寧が覗えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の身体状況に合わせた環境作りを心掛けている。必要に応じた手すりの設置、場所の明記等により安全で自立した生活が送れるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2273100137		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームゆひもや 3階		
所在地	静岡県静岡市清水区由比427-14		
自己評価作成日	平成30年8月10日	評価結果市町村受理日	平成30年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2273100137-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①毎月勉強会とテストを実施し、スキルアップに努めている。 ②毎月のクリーン作戦(歩道の清掃活動)とシニアサポーターの受け入れにより、地域貢献・地域交流を行っている。 ③デイサービスとの合同行事やレクリエーションへの参加。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

由比海岸の近くにデイサービスと併設して事業所があります。児童館から子どもたちが来所することはこれまでもあり、利用者が大変喜ぶため事業所では独自に「キッズサポーター」と銘々する企画を立ち上げています。階下のデイサービスと合同行事を年6回実施する場に子どもたちを招くもので、小学校、児童館にもチラシを配布してPRした結果、前回の夏祭りには35名の小学生で賑わい、ありがとうの言葉を届けあう書簡交換にも発展しています。また本年は職員の頭数の充足も得たことから、ユニット勤務の固定を図り、情報の行き違いをなくす業務改善に取り組んでいて、職員の働きやすさにも力を入れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ全体の理念を基にグループホーム独自の理念を掲げ職員が共有している。「こやまケア行動指針」「職員行動指針」を会議にて唱和することで職員間で共有し、お客様に寄り添うケアを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	シニアサポーターや慰問の方々の受け入れを行い、地域交流を続けている。また、地域の芸術祭に年1回作品を展示させて頂き参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月地域の清掃活動を実施する中で、地域貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、行事や勉強会内容、防災についての取り組みを報告させて頂いている。出席者の意見をサービス向上のために活かし、不参加者には報告書を送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議へ参加して頂いている。不参加の場合は報告書を送付している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について会議を開催し、取り組みや職員の意識付けを行っている。また、勉強会を実施し、身体拘束しないケアへの周知徹底を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に、虐待の勉強会も実施し、注意喚起、意識付けを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がついているお客様が入居されていた際には、カンファレンスの中でその都度情報交換を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書を用い内容について説明している。その際に疑問点をお聞きし、不安が解消されるよう対応している。改定時には、事前説明会を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議にご家族にもして頂き、意見を頂いている。また、定期的にアンケートを実施し、反映させるようにしている。また、お願いBOX(意見箱)を設置し毎月確認している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議の報告をその後の全体会議にて行い、話し合う機会を設けている。具体的な内容については部署会議にて話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価表を用い自己評価・上司評価を行い、個人評価に繋げている。また、個人目標を各自立て、面談を行う中で職場環境等について話をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には法人で研修を行い、基本的な地域の習得を図っている。自施設では、プリセプターと共にOJTを行い、独り立ちを目指している。内部・外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が外部研修に参加することで同業の職員と交流を図っている。お客様のインタークに他事業所へ訪問した際、ケアの内容やGHの状況について情報交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インタビューに伺い「利用者面談記録兼アセスメント」を基に介護計画書を作成し、カンファレンスにて検証を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談し要望や不安な点を確認している。ご家族の要望を伺い介護計画書に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「利用者面談記録兼アセスメント」を基に介護計画書を作成し、カンファレンスにて検証を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や行事の準備等ご本人ができることをやっています。お客様に感謝の言葉を伝えることでやりがいを持ってもらえるように支援している。できないお客様も単調な生活にならないようメリハリをつけて生活して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで日々の様子を伝えている。家族会や祭りなど案内を送りご家族と過ごせる機会を作っている。ご家族が来訪した時はゆっくりと過ごせる環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りや行事、散歩などで地域の方たちと交流している。デイサービスとの合同行事に参加することで知り合いのお客様やボランティア、ご家族との交流をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等の際に他の階のお客様と交流している。お客様同士の関係性を普段の様子からうかがい、職員が間に入ることで良い関係性を保つことが出来るように配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療関係や福祉関係の相談がある時はご家族の支援のためお話を伺っている。相談内容によって適切な情報提供や関係機関の紹介を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接本人に伺い、会話の中から把握するよう努めている。インテークの際にご家族や関係者からも情報を頂きながら、困難な場合でも本人が望んでいることを把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントを作成し職員全体で把握するように努めている。お客様との会話の中で把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録・バイタルチェック表・申し送りノート・モニタリング・カンファレンス・受診記録・医療連携簿を活用しお客様の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部署会議でカンファレンスを行い現在の課題や問題点について話し合っている。ご家族からも意見を伺い6か月ごとにモニタリングを行い介護計画書の見直しをし、検証後ご家族の了承を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にお客様のサービス内容が記載されている。職員は毎日サービス内容を確認することで現状の把握を行い、モニタリングに反映し、介護計画書作成の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスのお客様と交流を図り、合同行事や慰問には自由に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員・地域包括・災害ボランティアなどの方々に参加して頂き協力をお願いしている。また、シニアサポーターや小学生の慰問など地域資源を活用し楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様に合わせた医療をご希望に添った形で決めている。受診が困難な方は訪問診療にて対応し、事業所の看護師が主に対応、連携を図っている。ご家族の都合で受診できないときは職員が対応したり、ご家族と共に受診に同行して医療とのスムーズな連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスとの看護師が体調確認を行い医療連携記録簿を作成している。受診時には受診記録を作成し看護師が確認している。変化がある時は朝礼で看護師への申し送りを行っている。申し送りの医療欄で職員全員がお客様の体調を把握出来るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、職員が付き添い現状を報告している。本人の状態に合わせて医師・ご家族と相談し病院への訪問、看護師への聞き取り等の対応をしている。退院時もMSWや看護師等と退院のカンファレンスを行い情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り及び重度化に関する指針・マニュアルがあり、入居時または適宜説明している。お客様の体調変化がある時には医療機関と早めに情報共有し、ご家族を含めて話し合いを行い支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で緊急対応マニュアルを作成しており職員が把握している。今年度は普通救命講習の受講を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て防災訓練を行っており、火災想定を年2回、風水害訓練を年1回実施している。また、防災委員の会議にて備蓄品の整備や勉強会を実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こよまケア行動指針に従い本人の意思を最優先にすることを大切にしている。接遇についての勉強会を行うことで職員一人一人が意識して業務している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気兼ねなく要望を伝えることが出来る信頼関係を築くように努力している。自己決定のできるお客様には必ず意思の確認を行い、本人の希望に添うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースを崩さず、自由に生活できるように支援している。慰問や行事の参加もお客様にその都度希望を確認している。体調や気分により日々の関わり方を考慮し、申し送りを行い職員が把握している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様に合わせて静養ができるように支援している。2か月に1度訪問理容に来て頂き希望があれば散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様が食事を楽しめるように栄養課と協力しながら、お客様に合った食事形態での食事を提供している。また、お客様に準備や片づけなども関わって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量についてチェック表にて確認している。食事量が減っているお客様には、栄養課や看護師と連携し食形態の変更や姿勢の見直し、栄養補助食品での補食を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、本人に合わせてスポンジやガーゼ、歯ブラシなどを使用して介助を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	さり気ない声掛けや誘導を行い、排泄を支援している。食前後にはトイレ誘導を行い、トイレでの排泄パターンや排泄のサインを職員間で申し送りすることでトイレでの排泄の支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタル表で排泄チェックを行い、状態を把握している。水分量が少ないお客様に対しては水分補給の声掛けをしている。便秘のお客様には看護師と連携して運動や下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に本人の希望を確認し得入用を楽しんで頂いている。お客様ごとにお湯の温度や入浴方法を職員が共有して気持ち良い入浴になるように配慮している。入浴時にはお客様とコミュニケーションをとって楽しい入浴になるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の希望や状態に合わせて昼寝や休息を取って頂いている。昼夜逆転にならないように昼寝の時間や日中の過ごし方に配慮している。居室の温度調整や寝具の調整をして気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手順書を作成し、薬の管理や服薬介助を行っている。服薬ミスがないようにチェック表を利用している。常に状態の変化に留意し医療連携簿、受診記録、申し送りノートにて情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビをみてお客様同士会話したり、できる家事を行ったり、慰問に参加したり、ご家族や地域の人との交流をすることで本人のペースを保ちながら単調にならないように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブに出かけて気分転換をしている。また、商工会祭りや芸術祭に出かけている。ただ、外出企画の数は少ない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の希望に添って、職員と一緒に買い物に出かけることが時々あるが、施設にて現金を預からない事、お金の使用や管理が難しいお客様が多いこともあり、機会は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話にてご家族と連絡をとれるようにしている。施設から毎月の手紙や年末の年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、夜間に清掃を行い清潔な環境を整えている。温度や湿度の管理をして快適に過ごして頂けるようにしている。季節感を感じて頂けるように季節の飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とフロアを自由に行き来でき好きな場所でくつろぐことが出来るように努めている。フロアの空間がお客様同士の交流の場となるように職員と一緒に話をしたり、お声かけし支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やテレビなどを持参して頂いている。ご家族からのプレゼントや写真、メッセージを飾りご自分なりの雰囲気づくりを行っている。各部屋ごとに温度、湿度計を設置し環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の身体状況に合わせた環境作りを心掛けている。必要に応じた手すりの設置、場所の明記等により安全で自立した生活が送れるように支援している。		